

令和6年度 学校評価

・自己評価結果

本年度の 重点目標	【重点目標1】 安全で安心な教育環境の整備 【重点目標2】 幼児児童生徒一人一人の実態や、最新の教育事情に即した授業改善 【重点目標3】 将来を見据え、幼小中高のつながりや社会につながるのある指導の実践 【重点目標4】 働き方改革の更なる推進
部・分掌	自 己 評 価
幼稚園	【重点目標1】 ・朝の打合せで安全に活動できる環境になっているかどうか、職員の動きや個々への対応の仕方など、情報共有を行っている。統一した対応や役割分担ができるようにした。 ・子どもたちに話が伝わっているかを確認しながら活動を進めることで安心して活動に取り組めるように努めた。環境を整え、活動のねらいを確認し、時間的なゆとりを作ることで、個々のペースで活動しながら目標を達成することにつながった。 【重点目標2】 ・子どもたちが主体的に「伝えたい」「伝え合いたい」と思う環境を設定するため、朝の会の司会を子どもたちが行う形に変更した。「見てください」と自分から伝えたり、友達の話聞くために相手の顔をしっかり見たりと、自分たちで「伝え合おう」という意識が高まった。 ・司会活動以外の場面でも、相手の顔の見える位置に移動して話す場面も見られ、自分から「伝えたい」という気持ちも育ってきている。今後も環境作りを工夫したい。 【重点目標3】 ・話をするときのルールについて、イラストを使って伝え、廊下に掲示した。できているときに褒めることを続けることで、コミュニケーションのルールやマナーについて意識できることが増えた。 【重点目標4】 ・活動のねらいの確認、精選に加え、使用する教材についても見直しを行った。また行事の打ち合わせや準備時間を隙間時間に設定し、時間が効率的に使えるようにした。教材のデータ化、校務支援員への準備依頼なども進めた。
小学部	【重点目標1】 ・「みんなに分かる伝え方」を意識し、教師間での言葉や手話等の表現の確認や、児童と言葉の表現を考えるなどの活動を行った。授業やそれ以外の時間で、学年を超えて合同で活動する機会を多くもち、それぞれの児童が関わりを重ねていくことができた。 【重点目標2】 ・異なる学年の児童でグループを作り、あるテーマについて話をする「お話タイム」を昨年度から継続して行った。話を聞く際の姿勢や視線、どのような相づちがあるのかなどを、確認した後で、グループでの話を行い、児童が意識して取り組むことができた。また、テーマを工夫することで、相手のことを考えながら発言する機会ともなった。 【重点目標3】 ・児童の興味関心に基づき学習を計画し、地域の名産品でもある身近な食品の製造工場の見学を行った。また、農業や福祉に関わっている方を複数外部講師として招き、専門的な指導や体験的な活動を行うことができた。社会の様々な人と接しながら学習を進めることができた。 【重点目標4】 ・指導の際に使用できるデジタル教材を増やし、教材準備の時間の短縮や効果的な教示、説明に活用することができた。

中学部	【重点目標１】 ・生徒が安心して登校できるように、必要に応じて個別面談を行った。生徒情報を共有し、早めの対応を行うことで生徒の不安が大きくなる前に解決することができた。また、スクールカウンセラーに協力を仰ぎ、専門家と連携したことで生徒の心の安定につながることができた。 【重点目標２】 ・中学部になると学ぶべきことが増え、内容も詳細になる。手話だけではなく、画像や動画、日本語のスライド提示など ICT を活用した情報保障も行うようにすることで、生徒一人一人の実態に合った指導ができた。 【重点目標３】 ・今年度は県の事業を活用して、外部講師から働くために必要な力について学び、それを踏まえ職場体験を行うことができた。学んだことを意識して職場体験に取り組む様子が見られた。 【重点目標４】 ・会議の議題を精選し、会議前に資料を回覧して周知し、意見や疑問を募った。また、意見を集める際にグループウェアを活用することで効率的に意見を集約できた。その結果、議論すべき内容に多くの時間を割くことができた。
高等部	【重点目標１】 ・総合的な学習として地震について学習し、実際に社会科見学として名古屋市防災センターを訪れ地震の体験をした。この体験を経て地震の怖さと発生時の行動や避難方法などを具体的に学び、学習発表会で全校に伝えることができた。 【重点目標２】 ・幼児児童生徒一人一人の実態に応ずるために三つの教育課を設けた。教育課程 A では、2 年次に選択する学習基礎コースで課題研究という科目を設けた。そこでは、生徒が自ら学びの目標を設定し、学習活動を振り返りながら進めることができ、学校ブログの継続的な更新と情報スキルを生かした就職へとつながった。 【重点目標３】 ・社会につながりのある指導の実践として、校外販売実習や高等学校との交流および共同学習を継続して行っている。その結果、接客や商品管理、マーケティングなどの実践的なスキルを学ぶことができ、顧客とのやりとりを通じて、コミュニケーション能力や対人スキルの向上へとつながった。また、交流及び共同学習では、異なる障害や専門分野の知識を共有し、学びの幅を広げることができた。 【重点目標４】 ・部で発行している「高等部だより」を効率よく作成するために、行事予定表を年度初めに一括記載し、記事はテンプレート化した。このことにより保護者や生徒にとって見通しが立てやすくなるとともに、記事のテンプレート化は作成時間の短縮につながった。 ・ICT 機器のアプリの使い方やデータを加工するための情報を収集するためにテキスト生成 AI の一つである Copilot（マイクロソフト社製）を使った。書籍やインターネットで検索するよりもはるかに短時間で目的とする情報を得ることができ、勤務時間内に業務を完遂することができた。
総務部	【重点目標３】 ・子どもたちや保護者、職員が目につきやすい場所にある掲示板を活用して、子どもたちの作品を掲示する「鑑賞コーナー」を設けた。所属部だけでなく、他部の作品も鑑賞できるように、定期的に作品を入れ替えながら掲示することができた。 【重点目標４】 ・各部で行っている修了式、卒業式では、スムーズに準備が進められるように、4 つの部が共通または共有すべき仕事内容を整理して資料にまとめ、準備に取り組むことができた。 ・繁忙期が偏らないように、長期休業期間を活用して業務に取り組んだり、校務補助員の協力を得ながら仕事を分散したりすることができた。

教務部	【重点目標１】 ・地震に備え、安全な図書室環境作りのため、棚を低いものに替え、レイアウトも変更した。それに伴い、学びにつながるように、書籍を探しやすく興味関心をもちやすいように並び替えた。 【重点目標２】 ・以前よりも他者の授業を参観しやすい雰囲気を作ることができた。授業参観後に授業担当者に感想等を記入して渡す「いいね」カードは、浸透こそ今一つであったが、自分にはない視点でのアドバイスがもらえ、授業改善につなげることができた。 【重点目標３・４】 ・研修・自立活動部、情報部と連携して、夏季研修として新校務支援システムの研修を実施した。他部の状況や実際に体験しながら、システムの有効活用を職員で考え、意見交換をすることができた。
情報部	【重点目標１・３】 ・本年度実施した教員用端末やシステムの更改のポイントを、研修会にて説明したり校務支援システムで周知したりしてスムーズに移行できた。トラブル等があれば速やかに移行窓口に関わり合わせて対応し、大きな混乱は見られなかった。 ・各部でロイロノートやデジタル教科書など様々な ICT ツールを用いた学習活動を進めた。 【重点目標４】 ・ICT 支援員制度を活用し、各校務分掌の業務改善に活かした。 ・各システムの便利な機能等を都度紹介して、業務に活かせるように働き掛けた。
指導部	【重点目標１】 ・いじめ防止基本方針に則った組織的な対応と学校生活アンケートを基にした問題の早期発見・未然防止に努めることができた結果、今年度、いじめ件数は０であった。 ・心理面の支援の充実では、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどに関する情報発信を行い、児童生徒だけでなく教員や保護者にも、ケース会や職員研修等を通じて専門家活用が増えた。 ・防犯に関する現職研修として、危機管理マニュアルを基にした不審者侵入時の対応シミュレーションを実施し、豊橋警察署生活安全課から発生時の適切な対応について指導・助言をいただき防犯力の向上を図ることができた。 ・防災に関しては、危機管理マニュアルに落雷事故防止についての対応を加え、職員にも周知することができた。 【重点目標２・３】 ・子どもたちの主体的・積極的な活動への参加に向けて、児童会と生徒会が中心となって、各行事において子どもたち同士が関わりをもてるよう工夫した企画・運営ができた。 ・防災教育に関しては、避難訓練（地震）に怪我人を救助する想定を加え、より実践的な訓練を行い、児童生徒、職員ともに防災意識を高めることができた。 【重点目標４】 ・行事、訓練等の事後アンケートをグループウェアで行うことで、データの集計や整理などが簡素化でき、業務の改善を行うことができた。 ・校務業務リストの充実に向けて項目の整理・削減を行った。年間の校務分掌業務を月ごとにリストアップし、スケジュールに見通しをもちやすくした。また、業務ごとに担当者を決め、やるべき業務の範囲を明確化した。

保健体育部	【重点目標１】 ・感染症対策や熱中症予防等の情報をグループウェアや掲示を通して全校に共通理解を図り、適切に対応することができた。 ・たよりや掲示物、ホームページを通して、健康や食に関する興味・関心を広げられる情報を発信することができた。 ・緊急時の対応や、ＡＥＤ・心肺蘇生法などの現職研修を行うことで、教職員の安全に対する意識を高めることができた。 【重点目標２】 ・必要に応じて、養護教諭、栄養教諭の授業への参加を行った。特に、保健指導や給食の時間の指導では、発達段階に応じた専門的な指導ができた。 ・各部で外部講師を活用し、専門的な立場の方々の講演を受け、知識を深めることができた。 【重点目標３】 ・保健・運動委員会では「心の健康」をテーマに、活動を行った。外部講師を招き、ストレスと心の健康の関係やセルフケアの仕方等を学ぶことができた。また、中学部、高等部の生徒や職員を対象に、ストレスに関するアンケートを実施した。調べた内容をまとめた掲示物を作成し、情報発信することができた。身近な人たちのストレス発散方法などを知ることができ、興味をもって学ぶことができた。 【重点目標４】 ・複数人を各担当に配置することにより、業務の負担を分担することができた。 ・欠食の提出、確認方法を見直し、簡略化することができた。
進路指導部	【重点目標２、３】 ・生徒一人一人の実態やこれまでの経験を考慮し、調べ学習など個別に必要な課題を提示しながら、進路指導を進めた。 ・進路個別相談を実施し、相談希望のある保護者に情報提供を行った。特に中学部保護者からの依頼が多く、高等部進学後の進路決定の流れや進路先情報などを伝えることができた。 ・中高生徒保護者向け企業等見学会を新設し、生徒と保護者が中学部段階から具体的に進路を考えられる機会を設定した。 ・ハローワークや障害者就業・生活支援センターなどと連携し、進路指導を進めることができた。 【重点目標４】 ・必要に応じて進路指導部員で情報共有を行いながら、業務を進めた。 ・他校や就労アドバイザーからの情報も参考にし、進路先の情報をスムーズに得られるようにした。
研修・自立活動部	【重点目標１】 ・現職研修や自立活動研修については、障害や補聴機器に関して理解を深めたり、手話表現や読み取りの技術を高めたりできるような内容で実施できた。ソフト面ハード面共に情報環境を整え、幼児児童生徒が安心して学べる学校づくりを引き続き行っていく。 【重点目標２】 ・自立活動だよりでは、繰り返し情報提供が必要な事柄と時事のバランスを考え、幼児児童生徒と保護者に有益なものとなるように努めた。読み手にとってより身近なものとなるように、今後も工夫を重ねていく。 ・校内研究を計画的に進めるために、東海地区聾教育研究会に関する内容も含めて、情報を早目に周知した。所定のフォルダを活用し、共通の資料を共有できるようにした。 【重点目標３】 ・補聴器業者や人工内耳メーカーの担当者から、基本的な事柄や最新の情報を学ぶ機会をもつことができた。今後とも外部とのつながりを持ち、知り得た情報を職員間で共有し、幼児児童生徒と保護者に伝えていく。 【重点目標４】 ・前年度作成した「研修・自立活動関係業務の手引き」を適宜確認しながら業務を行った。 ・分掌部会について、連絡事項のみの場合は紙面開催やグループウェアでの連絡とし、会議の効率化を図った。 ・必要に応じて、グループの職員で業務を分担し合い、一人一人負担が大きくなりえないようにした。

教育支援部	【重点目標２・３】 ・通級による指導実施校の職員と連携を密にし、児童生徒の実態や要望に応じた指導・支援と教育環境の改善に努めることができた。 ・難聴学級設置の小中学校に対し、研修会の実施や聴覚支援便りの配付を継続したり、のびやか相談の啓発に努めたりして、地域で学ぶ児童生徒にとってよりよい教育環境が整備されていくように働き掛けた。 ・経験の長い教員が聴覚障害教育について相談に応じることができる校内体制を作っているが、職員への啓発と利用しやすさの面で工夫が必要であった。 【重点目標４】 ・研修会の業務について、グループの職員で協力することで、教育支援部の職員だけに担当が偏らないようにした。
寮務部	【重点目標１】 ・舎生が安心して寄宿舍生活を送れるように、指導員それぞれの個性を活かしたコミュニケーションで、気持ちの変化や思いをくみ取るように努めることができた。また、多角的な視点から舎生を理解できるように教員や保護者と情報共有を行うことができた。 【重点目標２】 ・舎生の実態や目標に即した指導や活動をすることができた。中学部と連携して舎生の課題や進路希望に合わせた資料を準備したり、課題を提供したりすることができた。 ・自治会の話合いで、舎生同士の意見交換が行えるように、事前に資料や話題の提供を行うことができた。